

中学 1 年 国語科 教材別テスト④ 模範解答・解説

「詩の世界」／光村図書『国語 1』

【このテストの使い方】

本文（詩）は載せていません。教科書『国語 1』の「詩の世界」のページを開いたまま解答します。大問四はどの詩を選んでよい自由選択型です。そのため、模範解答には「正解の一つの形」ではなく採点基準（ルーブリック）を示しています。選んだ詩がちがっても、同じ基準で採点できるようにつくられています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	1点×20＝20点
	二	詩の表現技法の用語（擬人法・直喩・隠喩・反復・倒置法・体言止め・対句・口語自由詩）	2点×8＝16点
	三	語句・漢字の知識（同音異義語・部首名・慣用句・四字熟語・対義語・熟語の組み立て）	2点×7＝14点
思考・判断・表現 50点	四	詩の鑑賞（自分で選んだ一編について記述）	50点
合計			100点

【出題のねらい】

- ① 詩を読むための用語（比喩・擬人法・反復・倒置法・体言止め・対句・口語自由詩）を正しく使えるか。
- ② 詩の中から表現の工夫を自分で見つけ出し、書き抜くことができるか。
- ③ その工夫がどんな効果をあげているかを、自分の言葉で説明できるか。
- ④ 詩の主題（作者が伝えたいこと）を、字数内にまとめられるか。
- ⑤ 自分の感想を、詩の言葉を根拠にして述べられるか（「なんとなく好き」で終わらせない）。

一 漢字の読み書き （1点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	ろうどく	⑪	光景
②	よいん	⑫	印象
③	ひびく	⑬	余白
④	えがく	⑭	想像
⑤	ひゆ	⑮	発想
⑥	かんしょう	⑯	沈黙
⑦	くりかえす	⑰	風景
⑧	よむ	⑱	感覚
⑨	やくどう	⑲	静寂
⑩	せいりょう	⑳	鼓動

小計 20点

【注意したい字】

⑤「比喩」は「ひゆ」。「ひたとえ」は×。⑧「詠む」は「よむ」。「読む」と書き分ける（詠む＝歌や詩をつくる）。③④⑦⑧は、読みも送りがなの部分まで書いて正解（「ひび」「えが」だけでは×）。⑭「想像」と「創造」の書き分けに注意（ここは頭の中に思いえがく「想像」）。⑯「沈黙」の「沈」はさんずい。⑲「静寂」は「せいじゃく」。⑳「鼓動」の「鼓」は「つづみ」。

二 詩の表現技法 (2点×8=16点)

番号	解答	解説・例
(1)	擬人法	例「風がささやく」「花がほほえむ」。人でないものに人の動作・気持ちを重ねる。
(2)	直喩(明喩)	例「雪のような肌」。「ようだ・みたいだ・ごとし」などの語がはっきり出る。「比喩」だけでは不十分なので×。
(3)	隠喩(暗喩)	例「君は太陽だ」。たとえの言葉を使わず、言い切る形でたとえる。
(4)	反復(反復法)	例「走れ 走れ 走れ」。リズムを生み、気持ちの強さを表す。「くり返し」でも正答。
(5)	倒置法	例「美しいなあ、この海は。」ふつうの語順を変えて、強調する。
(6)	体言止め	例「かがやく朝の光。」余韻を残し、印象を強める。
(7)	対句(対句法)	例「山は青く 海は広く」。似た組み立てを並べて調子を整える。
(8)	口語自由詩	現代の話し言葉(口語)で書かれ、音数や行数の決まりがない(自由詩)詩。「自由詩」だけ、「口語詩」だけでは不十分なので×。文語定型詩(昔の言葉+音数の決まりあり)と区別して覚える。

小計 16点

三 語句・漢字の知識 (2点×7=14点)

番号	解答	解説
(1)	関心	どちらも「かんしん」。「感心」＝りっぱだと思う／「関心」＝興味をもつ。問題文で「興味をもつこと」と意味を限定しているので、答えは「関心」のみ。
(2)	ごんべん	「詠」の部首は「言」。言葉に関わる漢字につく(詩・語・話なども同じ系統)。
(3)	おと	「響」の部首は「音」。部首名は「おと」。「ひびく」は×。
(4)	ア	「胸を打つ」＝強く心を動かされること。詩の感想を書くときに使える表現。
(5)	いちごいちえ	「一期一会」＝一生に一度だけの出会い。「いっきいっかい」は×。
(6)	抽象	具体⇄抽象。説明文でもよく出る対義語。
(7)	ア	「日没」＝「日が没する」＝主語と述語の関係。「国立」＝「国が立てる」で同じ。イ読書は目的、ウ高低は反対、エ岩石は似た意味。

小計 14点 / 知識・技能 合計 50点

四 詩の鑑賞 (50点) *自由選択型のため採点基準を示す

番号	満点の条件	採点基準 (部分点)
(1) 4点	教科書「詩の世界」に実際に収められている詩の題名と作者名が、正しい表記で書かれている。	題名2点/作者名2点。題名が無記入の場合、(2)以降も採点できないので0点とする(必ず書かせる)。教科書以外の詩を選んだ場合も0点。
(2) 2点	選んだ詩の連の数が正しい。連に分かれていない詩なら「一連」。	正しければ2点、ちがえば0点。行の数を答えているものは0点(連=行のまとまり)。
(3) 8点	①比喩が使われている部分を、詩のとおり正確に書き抜いている。 ②「A(何)をB(何)にたとえている」の形で、AとBの両方が書けている。	書き抜き4点(表記のまちがいは-1点)/説明4点(AかBの一方だけなら2点)。 AとBが逆になっているものは説明部分0点。 代わりに擬人法・反復・倒置法・体言止めを選んだ場合は、書き抜き4点+技法名が正しければ4点。技法名のみでどの部分かを示していないものは4点止まり。
(4) 8点	①工夫された表現を一か所、正確に書き抜いている。 ②その効果を、「～ことで、～という感じが伝わる」のように、表現と読者の受け取り方を結びつけて説明できている。	書き抜き3点/効果の説明5点。 効果の説明が「きれいだった」「印象的だった」のような感想だけで、表現と結びついていないものは2点。 「リズムがよくなる」「余韻が残る」「気持ちの強さが伝わる」「情景が目には浮かぶ」など、具体的な効果が書けていれば5点。
(5) 10点	詩全体をふまえて、作者が最も伝えたいこと(主題)が、25～40字でまとめられている。	主題の中心をとらえている…6点/言葉が具体的で、その詩でなければ書けない内容になっている…4点。 どの詩にも当てはまるような一般論(例「命は大切だということ」だけ)は6点止まり。 あらすじの要約になっているものは4点。字数から外れたら-1点。
(6) 10点	①詩の中の言葉や表現を具体的に引用している。 ②その言葉からどう感じたか・考えたかを述べている。 ③60～80字に収まっている。	引用(詩の言葉を「」で示すなど)…4点/自分の感想・考え…4点/文章としてのまとまり・字数…2点。 詩の言葉にまったくふれていないものは最大4点。 「おもしろかった」「よかった」だけで終わっているものは2点。字数から外れたら-1点。

四 詩の鑑賞 (50点) *自由選択型のため採点基準を示す (つづき)

番号	満点の条件	採点基準 (部分点)
(7) 8点	①音読の工夫が具体的 (例:ここをゆっくり読む／ここで一度間を置く／くり返しの部分を少しずつ強くする／最後は声を落とす)。 ②その理由が、詩の内容や表現と結びついている。	工夫4点／理由4点。 「気持ちをこめて読む」「大きな声で読む」などの詩にも言えることだけなら工夫は2点。 理由が「そのほうがいいから」のように説明になっていないものは0点。 「反復の部分だから」「体言止めで終わるから」のように技法名を使って理由が言えていれば満点。

思考・判断・表現 合計 50点 / 総合 100点

【この教材で落としやすいポイント (8つ)】

1. 連は「行のまとまり」。行数と混同しないこと。
2. 直喩と隠喩のちがいは、「ようだ・みたいだ」があるかないか。「比喩」とだけ答えても正解にならない。
3. 擬人法は比喩の一種だが、聞かれたら「擬人法」と答える。
4. 倒置法は語順の入れかえ、体言止めは名詞で終わること。名前と中身をセットで覚える。
5. 書き抜きは詩のとおり。かなを漢字に直したり、句読点を勝手に足したりしない。
6. 「何を何にたとえているか」は向きを間違えやすい。たとえられる側 (本体) が先、たとえる側 (比喩表現) が後。
7. 主題はあらすじではない。「何が起きたか」ではなく「作者が何を言いたいか」。
8. 感想は必ず詩の言葉を引用して書く。これが点数の分かれ目になる。

